

令和5年度 政策評価表

		作成日	令和5年8月21日
リーディングプロジェクト	所沢ブランドの推進とまちの活性化	ゼネラルマネージャー	産業経済部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	経営企画部長、市民部長、環境クリーン部長、産業経済部長、所沢駅西口まちづくり担当理事、教育総務部長		
幹事会メンバー	産業経済部次長、企画総務課長、経営企画課長、広報課長、地域づくり推進担当参事、文化芸術振興課長、みどり自然課長、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、所沢駅西口区画整理担当参事、スポーツ振興課長、文化財保護課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

本市には、狭山湖や狭山丘陵に代表される都市近郊の豊かなみどり、歴史の中で育まれてきた重松流祭囃子などの伝統文化や歴史的建造物、狭山茶・さといもなどの農産物、焼だんごや手打ちうどんといった食文化、「音楽のあるまちづくり」に代表されるモダンな市民文化など、市民が誇りに思う「所沢ブランド」が数多くあります。そして、まちの活性化を図るためには、こうした他市にも誇れる本市の魅力をも十分に活かしていくことが必要です。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせ、東所沢に新たな文化の拠点となる「ところざわサクラタウン」が開設するとともに、西武ドーム球場周辺のボールパーク化が計画されるなど、今後、国内外から多くの観光客が本市を訪れることが見込まれています。

国内はもとより、海外にまで本市の魅力伝えることができるこうした機会を捉え、インバウンドに対応した多言語表示や通信環境整備といった基盤整備をはじめ、地元商店や地域における観光客受け入れに備えた取り組みなどを推進し、観光を軸とした魅力とにぎわいの創出のため、豊かなみどりと文化の魅力伝える「所沢ブランド」を発信します。

【令和4年度に実施した事業】

◀「主な取り組み」にあたる事業▶

5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点整備・充実）	
「所沢市観光情報・物産館」整備事業（COOL JAPAN FORE ST構想事業）	商業観光課
観光拠点の整備・充実事業	商業観光課
「フランス航空教育団と日仏交流」次の100年事業	商業観光課
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進（地域製品のブランド化の推進）	
所沢ブランド特産品創出支援事業	産業振興課
ヘルスツーリズム産業創出支援事業	商業観光課
所沢農産物ブランド化推進事業	農業振興課

5-3-4 観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築）	
インバウンド戦略推進事業（COOL JAPAN FOREST構 想事業）	商業観光課
効果的な観光客誘致プロモーションの推進事業	商業観光課

5-6-1 個性あふれる文化の創造（市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進・市民文化センターの改修）	
ところざわアートのみらい開催事業	文化芸術振興課
音楽のあるまちづくり推進事業	文化芸術振興課
市民文化センター管理運営事業	文化芸術振興課

5-6-2 文化財の保護・活用（滝の城跡等の文化財の活用）	
歴史的建造物整備活用事業	文化財保護課
滝の城跡整備事業	文化財保護課
文化財公開活用事業	文化財保護課

≪「関連する取り組み」にあたる事業≫

4-2-3 みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築・狭山湖周辺の魅力創出）	
水とみどりがつくるネットワーク計画推進事業	みどり自然課
水田景観保全事業	みどり自然課
砂川堀水辺保全・散策路整備事業	河川課

6-2-1 所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進（所沢駅西口再開発・区画整理事業）	
所沢駅西口まちづくり事業	所沢駅西口区画整理事務所
所沢駅西口土地区画整理事業	所沢駅西口区画整理事務所
所沢駅ふれあい通り線築造事業（1工区）	所沢駅西口区画整理事務所

7-4-3 地域の総合力の向上（地域の魅力を都市ブランドとして発信・COOL JAPAN FOREST 構想の推進）	
COOL JAPAN FOREST 構想推進事業	経営企画課
ダイアプラン推進事業	経営企画課

【評価及び今後の方針】

令和4年度の取り組みに対する評価

●にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点整備・充実）

- ・令和4年度に開業1周年を迎えた「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO」では、今年度も本市のにぎわい拠点として、YOT-TOKO1周年祭の他、様々なイベントを開催し、本市の魅力発信に取り組んだ。令和4年度の来館者数も当初の見込みを超え、約30万人（推計）となった。
- ・「航空発祥の地 所沢」の観光資源としての魅力を磨き上げ、アフターコロナを見据えた市内のマイクロツーリズムを推進すること等を目的に、日本初の飛行場跡地に整備されている所沢航空記念公園などを舞台にした航空に関する歴史等を伝える短編映画を制作した。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、3年ぶりの開催となった「第43回所沢市民フェスティバル」は、2日間とも好天に恵まれ約30万人の来場者があり、「開催を待っていた」、「やはりフェスティバルは楽しい」というような開催を待ち望んでいた声も聞かれ、過去40年以上開催してきた実績を実感できる内容であった。
- ・コミュニティビジョンを活用し、市のブランド特産品を紹介した。ダイア4市でも放映され、市内だけでなく近隣市においてもPRすることができた。
- ・テレビ埼玉の番組では市内の観光名所や名産品などを紹介し、J:COMの番組においても狭山茶を使用した商品や自転車のペダルなどを紹介した。

●観光を軸としたブランド化の推進（地域産品のブランド化の推進）

- ・「クアオルト健康ウォーキング」を活用した観光振興を実施する「埼玉県・所沢市ヘルスツーリズム協議会」との協働により、「クアオルト健康ウォーキング」を実施した。普及啓発のため、広報ところざわや市ホームページ等による情報発信を行うとともに、実践指導者の養成及び研修を行い、能力向上を図りながら、観光と健康を融合した事業を展開した。
- ・所沢らしさを追求した魅力ある逸品「所沢ブランド特産品」の第5回認定審査会を実施し、5商品を選定した。また、所沢ブランド特産品の特設WEBサイトにて認定商品（42商品）及び開発者の紹介を行い、また広報ところざわで商品紹介することで販路支援を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となった「ところざわ新茶まつり」では、開催地を航空公園駅からYOT-TOKOに移したこともあり、多くの方々にご来場いただいた。また、同じく3年ぶりの開催となった「農業祭」については、晴天にも恵まれ、多くの方々に農業者団体のブースにお立ち寄りいただいたことで、所沢産農産物のPRへと繋げることが出来た。
- ・市の特産品に関して、狭山茶については、お茶の香りを発する「茶香炉」を市内公共施設に設置するとともにイベント等で活用することで、市内外に狭山茶の産地であることをPRした。また全国でもトップレベルの生産量を誇る「さといも」については、新たに「所沢産さといも元気掘り起し事業」として、生産に必要な資材購入費及びドローンを活用した生育状況の管理等に要する委託費の一部に対し補助金を交付することで支援を行った。

●観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築）

- ・インバウンド戦略推進事業では、アフターコロナを見据え、台湾で開催された「台北国際旅行博」に出展するとともに、インターネットを活用した情報発信を行った。
- ・「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO」において、本市の魅力的な観光資源を発信するとともに、多言語に対応した観光パンフレットを提供する等、外国人観光客向けに充実した対応を図った。

●個性あふれる文化の創造（市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進・市民文化センターの改修）

- ・現代美術展「ところざわアートのミライ」を開催し、所沢ゆかりの若手作家に対して作品発表の機会を、市民に対して気軽にアートに触れる機会を提供することで文化芸術への関心を高めた。
- ・まちなかコンサート等を開催したほか、グランエミオ所沢にストリートピアノの設置を継続し、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方に演奏や鑑賞を楽しんでいただき、「音楽のあるまちづくり」をさらに推進した。
- ・市民文化センター ミューズについては、コロナ禍の中でも、地域の文化拠点としての機能を果たしつつ、多彩な文化芸術活動を推進した。
- ・広報ところざわ1月号において、「探訪 アートなところざわ」と題した特集記事を掲載した。本市の暮らしを豊かに彩るアートのイベント及び施設、それに携わる方々の思いを紹介し、本市の文化的な魅力を発信した。

●文化財の保護・活用（滝の城跡等の文化財の活用）

- ・歴史的建造物保存活用事業では、外部委員による審議会や庁内関係部署の調整会議における検討を進め「所沢市寿町歴史的建造物整備活用基本方針」を策定することで、寿町に所在する国登録有形文化財「秋田家住宅」及び敷地全体の整備活用について、市の方針を示した。
- ・滝の城跡整備事業では、二の廓中堀の構造解明を進めるため、第10次発掘調査として二の廓北東側中堀の調査を行った。さらに「現地説明会」を開催し、調査成果を分かりやすく市民等に伝えた。
- ・文化財公開活用事業では、令和4年度新指定有形文化財（絵画）「小茂田青樹写生画」公開の場として、文化財保護課と文化芸術振興課が連携した「小茂田青樹写生画・山路真護油彩画展」を開催することにより、市民が所沢の文化財を学ぶとともに芸術文化の秋を楽しむ機会とした。

●みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築・狭山湖周辺の魅力創出）

- ・水やみどりとまちなかのにぎわいや魅力を結ぶ散策路を設定し「人を中心にしたまちづくり」の実現を目指す「所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画」について、庁内会議「みどりトコトコ・プロジェクト」での進捗管理を通じて、砂川堀沿いの散策路が三ヶ島橋から寺山橋までつながった。
- ・上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域内に残されている貴重な水田景観を保全するため、水田5筆について地権者と貸借契約を結び、地元団体との協働により耕作及び管理を実施した。

●所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進（所沢駅西口再開発・区画整理事業）

- ・所沢駅西口北街区第一種市街地再開発事業が完了した。また、所沢駅西口土地区画整理事業において、県道久米所沢線の歩道の一部を拡幅させるとともに、公園の拡張を行った。
- ・人を中心にしたまちづくりの実現に向け、所沢駅周辺の回遊性の向上を目指した歩行者デッキの設計や所沢駅西口駅前広場の再整備について検討を行った。
- ・鉄道の地下で立体交差する所沢駅ふれあい通り線について、地中構造物の工事を行った。また、今後の道路工事に支障となる線路の分岐器を西武鉄道株式会社が協定に基づき移設させた。

●地域の総合力の向上（地域の魅力を都市ブランドとして発信・COOL JAPAN FOREST 構想の推進）

- ・COOL JAPAN FOREST 構想は現在「成果創出期」にあり、本構想は次の取り組み等により概ね順調に推移している。

- ① ところざわサクラタウンにおいて、11月12日、13日に「武蔵野回廊文化祭」を開催した。市では、本構想の周知に当たりブースを設け、市内外の多くのお客様に来訪いただいた。
 - ② 市道2-996号線における歩道整備が完了した。
 - ③ 市のeスポーツ事業や第10回マンホールサミット等、様々な機会を通じ事業連携をした。
 - ④ (仮称)開智所沢小学校・中等教育学校の令和6年4月開校に向けた準備等が順調に進んだ。
- ・ダイアプランでは、令和5年度に迎える埼玉県西部地域まちづくり協議会設立35周年に向け、記念事業の検討を進めた。また、3年ぶりに5市合同による行政視察(10月19日~20日:富山県富山市)を実施するなど、連携強化を図った。
 - ・令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた、所沢シティマラソン大会を3年ぶりに開催したところ、全国から4,856名が参加し、参加者に本市の自然豊かな魅力をPRすることができ、所沢ブランドの発信に寄与した。

【総評】

「ところざわまつり」や「所沢市民フェスティバル」、「農業祭」、「所沢シティマラソン大会」など、市民に親しまれてきた大きな事業の実施が可能となり、新型コロナウイルス感染症流行前の賑わいが戻ってきたと感じられる年となった。

また、所沢飛行場にまつわる短編映画の制作、現代美術展「ところざわアートのミライ」の開催、「秋田家住宅」の整備活用方針の策定、「みどりトコトコ・プロジェクト」による散策路の築造など、所沢ブランドの魅力を一層高める多様な取り組みが着実に進められた年でもあった。

今後、インバウンド戦略の推進、「所沢市観光情報・物産館」の活用、所沢駅西口土地区画整理事業の進展、開智学園の開校への対応などが本市のブランド価値を更に高め、従前にも増してまちの活性化につながるよう取り組みを進めたい。

今後の方針

●にぎわい拠点の創出・活性化(新規・既存の観光拠点整備・充実)

- ・所沢市観光情報・物産館YOT-TOKOと連携した、にぎわい拠点の充実を図る。
- ・今後も時機を捉えて、広報ところざわや市ホームページ等で市の魅力発信に努めていく。
- ・イベントの開催にあたっては、引き続き安全に開催するとともに、市民有志の実行委員会等との協働により、所沢らしさを創出できるよう引き続き検討していく。

●観光を軸としたブランド化の推進(地域産品のブランド化の推進)

- ・クアオルト健康ウォーキングの周知を図り、参加者の拡大に努める。
- ・所沢ブランド特産品については、認定商品も充実してきたことから、今後は販路支援に重点を置き、認知度向上のため、積極的な情報発信を行っていく。
- ・所沢農産物については、これまでの事業を展開しつつ、マルシェ等のイベント参加等も通じてPRに努めていく。

●観光客誘致の強化(地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築)

- ・アフターコロナによるインバウンド需要の回復に対応するため、海外に向けた情報発信及び外国人観光客の受入体制整備を進める。

●個性あふれる文化の創造（市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進・市民文化センターの改修）

- ・「音楽のあるまちづくり」を推進し、市民が多様な文化芸術に触れる機会を創出し、文化の薫り高い施策を進めていく。
- ・市民文化センター ミューズについては、市の文化発信拠点として、適切に管理運営をしていく。

●文化財の保護・活用（滝の城跡等の文化財の活用）

- ・先人たちが育み今に伝わる文化財等の保護に務めるとともに、「ふるさと所沢」の魅力を伝える活用事業も積極的に開催して、市民が本市への愛着や理解を深めるよう努めていく。

●みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築・狭山湖周辺の魅力創出）

- ・「所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画」について、庁内会議「みどりトコトコ・プロジェクト」の開催を継続し、引き続き情報共有を図りながら、各分野の取組推進につなげていく。
- ・貴重な水田景観を継続的に保全するため、耕作方法について引き続き研究し知見を蓄積するとともに、地元団体の協力のもと耕作、管理を実施していく。

●所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進（所沢駅西口再開発・区画整理事業）

- ・所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進めるとともに、民間開発による広域集客型商業施設に所沢らしさを求めていく。
- ・人を中心にしたまちづくりの実現に向け、所沢駅周辺の回遊性の向上を目指した歩行者デッキの整備や所沢駅西口駅前広場の再整備の検討を進める。
- ・所沢駅東西市街地の一体化や駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした所沢駅ふれあい通り線の早期開通を目指し整備を進める。

●地域の総合力の向上（地域の魅力を都市ブランドとして発信・COOL JAPAN FOREST 構想の推進）

- ・COOL JAPAN FOREST 構想において、「成果創出期」の更なる進展を図る。
 - ① 成果創出期に位置付けられた「知の集積エリアの創出」を実現する。（開智小中高、N高・S高、パリスサンジェルマンアカデミー）
 - ② 多くの事業等で連携強化を図り、インバウンドも含め、更なるにぎわいの創出に取り組む。（武蔵野文化祭）
 - ③ 県事業「水辺 de ベンチャーチャレンジ」により、圏域整備を進める。（東川ウッドデッキ整備）
- ・ダイアプランにおいて、35周年記念事業を通じて5市の連携強化を図るとともに、ゼロカーボンに積極的に取り組み、本圏域のブランド力の向上を図る。
- ・パリオリンピックに向け、引き続きゴールボール日本代表の練習会場として、市民体育館を提供するとともに、世界水泳選手権2023福岡大会に向け、所沢市にて事前合宿を行うイタリア水泳選手団を支援する等、所沢市を世界に発信する。さらに、12月の所沢シティマラソン大会に加え、10月に早稲田大学所沢キャンパスの陸上競技場にてところざわアスレチックフェスティバルを開催する等、本市の自然豊かな魅力をPRする。

【SDGsへの貢献】

- | | | | |
|---|--------------------|----|-------------------|
| 1 | 貧困をなくそう | 10 | 人や国の不平等をなくそう |
| 2 | 飢餓をゼロに | 11 | 住み続けられるまちづくりを |
| 3 | すべての人に健康と福祉を | 12 | つくる責任 つかう責任 |
| 4 | 質の高い教育をみんなに | 13 | 気候変動に具体的な対策を |
| 5 | ジェンダー平等を実現しよう | 14 | 海の豊かさを守ろう |
| 6 | 安全な水とトイレを世界中に | 15 | 陸の豊かさも守ろう |
| 7 | エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 | 平和と公正をすべての人に |
| 8 | 働きがいも経済成長も | 17 | パートナーシップで目標を達成しよう |
| 9 | 産業と技術革新の基盤を作ろう | | |